

第5回
第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会
議事概要

日 時：平成29年10月5日（木）10：00～12：00

場 所：市役所本庁舎6階第一会議室

出席委員：倉持委員長、桑野副委員長、大谷委員、玉木委員、渡辺委員、成清委員、中村委員、安田委員、徳田委員、土橋委員、中島委員、杉本委員、赤山委員、木谷委員

事務局：中心市街地整備課

オブザーバー：経済観光部

3. 報告・協議事項

(1) 報告事項・第4回委員会概要について（【資料2-1】により事務局説明）

報告事項・地元自治会等意見交換会について

（【資料2-2】【資料2-3】により事務局説明）

[委員長]ありがとうございました。それでは、委員より意見、質問等をお願いしたい。また、【資料2-1】について質問された委員の方は十分な回答になっているかどうかといった視点からもお願いしたい。（⇒一同意見・質問なし）

よろしいか。事務局には、意見回答で「検討を行う」となっているところは今後も検討を願う。成清委員より、【資料2-3】鳥取駅周辺まちづくり構想（案）で補足説明があればお願いしたい。

[成清委員]図「◆事業個所（検討中及び検討課題を含む）」で赤字3事業【検討課題】と1事業【検討中】があるが、これは3期事業で上げるのは早いと考えて、検討課題として注視していかなければならない事業と検討中の事業であることを補足説明する。

[委員長]ありがとうございました。それでは他に意見があれば、後ほどいただくものとし、
(2) 協議事項に移る。事務局より説明をお願いします。

(2) 協議事項 第3期中心市街地活性化基本計画（案）（【資料3】により事務局説明）

- ・ゾーン設定
- ・事業効果積算
- ・テーマ

[事務局]（45頁～60頁、74頁ゾーン設定図により、基本方針・テーマ、活性化の目標・重点施策・ゾーン設定について事務局説明）基本方針からゾーン設定まで説明を行った。ひとまず、ここまでにに関する意見をいただきたい。

[委員長]ありがとうございました。計画の目標、重点施策、ゾーンまで説明をいただいた。みなさんの意見をお願いしたい。

[大谷委員]前回4回委員会におけるテーマでは、「多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指している」となっていたが今回は無くなっている。また、市役所本庁舎の移転や鳥取城跡大手登城路復元整備といった具体的な整備が書いてあるが、確かに鳥取城跡というのは久松地区の観光の目玉であるが、復元整備というのがどれくらいのインパクトがあるのか、集客性が高いものになるのか、史跡として全体としての

取り組みの中で事業としては入ってくるものであるため、このような表現が良いのか疑問がある。また、中心市街地の中にある資源として鳥取温泉だとか民藝は大きな目玉ではあるが、前回は申し上げたが、鳥取の砂丘をテーマの中に入れた方が良いのではないかと。砂丘がどこにも出てこないため、テーマに拘るわけではないが「砂丘・温泉のまち」と言いながら、どこにも記載がないのでどこかで謳うべきと思う。もう一つ、59頁の「(4) 既存ストックの活用等による地域の再生」のなかに「街を担う人材育成」が概念的にあるのだが、このあたりが具体的なゾーニングの中で事業として挙がってくるのか。人材育成を進めるという点で何か事業としてあるか、コアとなる事業を具体的に盛り込んでいくのかが気になる。

[事務局] 「コンパクトシティ」について、前回は前面に出すとともに、中心市街地を「中心拠点」と位置づけ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指している文言を入れていた。「コンパクトシティ」は都市計画マスタープランで以前より取り組んできており、57頁の中心市街地地域の定義（第3号要件）で記載している。今回はテーマの設定を導き出す中で、分かりやすくするため、これまでの検証と新しい取り組みだけに絞り込んだ記載としている。「コンパクトシティ」は以前より取り組んできている内容なので、定義の方に記載してあることもあり少しトーンを下げた構成としてみた。城跡の表現については、確かに大手登城路復元整備事業はピンポイント事業であるので、大手登城路を整備してどう使っていくかが重要なわけであり、城跡周辺一帯で考えていくことになる。砂・砂丘については英委員からもテーマに組み込んでほしいと意見を頂いている。鳥取といえば、砂・砂丘が一番わかりやすいものだと思う。また、砂丘と街をどう結ぶかはこれまで課題であり、街と外を結ぶ周遊を考えていく必要があると考えている。テーマの中に含めるか否かは議論が必要だと思うが、基本的方向性の中に入れていくことを考えている。既存ストックの活用等における人材育成について、具体の事業は何であるかと問われると、昨年「鳥取市リノベーションまちづくり構想」を創り先行エリアを示している。それは、例えば若い方が事業を始める際に初期投資を下げるのが一つは開業の励みになると思うため、その観点で家賃が少し下がっている場所を狙うといった考え方がある。家賃が下がっている場所とメイン道路から1本入っている場所で且つ構想のコンセプトが若い人に刺さるようなことをしていくものとして花見橋通りに注目している。そこで物件を掘り起こしながら、いろいろなものを創っていく方向性とし、人材育成の一環として取り組みたいと考えている。また、経済部局とともに、事業を行う際の資金調達等の制度等を検討中であり、直接の人材育成ではないかもしれないが、新しいことをしていこうとしている方への応援として検討していきたい。よって、人材育成の具体の事業としては、今はリノベーションまちづくり事業ということになる。

[大谷委員] ありがとうございます。人材育成については、テーマで決めるのですが次期の目標数値や指標でなにか捉えることができないか。進めると言いながら、あとで検証するときにどれだけ人材育成が進んだのか、次期の計画策定時に検証できるようにならないか。単なる利用者数とか売上額ではなくて、何かで表せたら良いと思うので意見をしました。

[委員長]ありがとうございました。他はいかがか。

[成清委員]先ほど大谷委員から砂丘の文言をいれたい話があった。60頁「ゾーン設定」で「鳥取駅周辺地区」の「エントランスゾーン」に続く文章の中に「市の玄関口として砂丘をはじめとした周辺の魅力的な自然環境へのアクセス」が必要と思う。また、それが感じられるというのが重要と思うため、入れるようであればここが良いと思う。また、「城跡観光ゾーン」について、久松地区の住民意見として、城跡は憩いの場であって、観光客がたくさん増えることは住民にとっては望むことではなく、住民の暮らしがそこに根付いているからこそ観光の方が魅力を感じるという流れを望んでいる。そういったところの乖離があるとあまりよくない。このような歴史文化を感じる環境を住民と創っていくことを城跡観光ゾーンの重点的な部分に入れていくことが良いと強く思う。

[渡辺委員]観光について、砂丘と街中のつなぎ方や砂丘以外の観光資源の利用についてソフト事業が非常に重要である。私が考えるに、ループバスはどういった形で使われているのか。最近では団体ではなく、グループとか友達で観光をする人が増えている。そういった中で、例えば、「楽しむ」といった場合、土日でもループバスが砂丘や白兎を繋ぐようなルートが欲しい。また、そういった場面で担い手づくりの一環として観光ガイドに乗っていただき機会があるたびに観光客に鳥取の魅力を発信していく。具体的な言葉で発信していく。自分たちがここに住んでいいよといいながら、どうして自分たちが住んでいくことを外部に知らせるかということではないかと思う。奈良にたびたび旅行するが具体的に何時間もかけてガイドの話を聞きながら旅をすると魅力というか「もう一度行っても良いかな」と思う。そのような観光資源の掘り出し方と紹介の仕方をすれば、担い手も必然的に質的な向上が図れ、観光資源の量的な問題も解決していく。担い手というのはそのようなところから生まれてくる。例えば、先程の「リノベーションまちづくり事業」は、まちをつくらうと大胆な方法でハード事業を行うより、ソフト的なところが良く、中心市街地でいろいろなまちづくりを考えている人が集まれるところを創っていく。そこには具体的なテーマを持ってやっていき、ハード事業とは別に進めていく方法があると思う。それと、「住居推進ゾーン」について、袋川から北側の部分が入っているが、具体的に言うと、私が住んでいるところの防火帯で60年以上経っている部分である。本通り商店街と違い、住みながら商売をしている人や商売を止めても住んでいる人が多い。さらに、町内会長をしている戎町は27軒あるうちの14軒が二人暮らしか一人暮らしの70歳以上の高齢者である。この事業期間5年間に住まいの価値がどうなるのかと言えば、去年の暮れにビルの耐震性を調査した結果、震度5弱に耐えられない構造であり継続して住むには不適格なビルであるため防火帯は居住としては使えないという判断になると思う。ここで具体的にリノベーションをする場合、用途変更等を行うと消防法等でさらに厳しい条件となると思う。そのため居住推進ゾーンの位置づけはどうかと思う。このまま置いておくと10年もしたらあの防火帯に住んでいくことができる人がいるのか。震度5弱の地震が起こるとほぼ全壊家屋になってしまう、危険家屋に指定されてしまう危機感もある。「居住推進ゾーン」とすることについては良いと思うが、商いも現状に合った商いとし、その中で人が住んでいく、人

が住めばそれに合った商いが生まれてくるといった手法とし、今まで通りの業態ではない「住まいと商いとの新しい住み方」があるのではないか。そのあたりもお聞きしたい。具体的に言うと、私が理事長をする商連が関わる土曜夜市などに具体的に参加する店がほとんどない状況であり、本通りでも10数軒しかない。そういう状態の中でソフト事業をどのように進めていくかも考える必要がある。そのこと自体が今の時代に合っているかも検証しながら、ただ商売人がやっているから、まあやらしておくというようでは駄目ではないか。私自身が商売人でこのように言うてはいけないのだが。

[事務局]ご意見ありがとうございます。ループバスの件について、現在、くる梨の運行計画の見直しも行っている状況であり、ループ麒麟獅子は砂丘や賀露を繋ぎながらまちまで帰ってくるルートもある。また、ループ麒麟獅子の乗降者数は増加しており、くる梨も利用者数が増加傾向である。観光客は昔のような団体ではなく、友達グループのような範囲内でぼつぼつと来る傾向が多い。そういった場面ではバス利用も多く、特に外国人観光客もそのようだ。ソフト事業といった面では周遊バスのルートを使って回遊させることを考えていく必要があり、まちなかにあるバス停の近くに個性的な店があるため、そういったところをもっとPRしていきたいと考えている。その他、訪れた方に鳥取らしさをPRする、鳥取のまちなかは特にパッと見てわかりやすいものが少ないと思う。この点で、民間まちづくり会社などは、外から来られた方をいつも案内して、まちの中を一日かけてぐるりと案内し店を紹介するなどしている。来られた方は地元の方に案内していただいて面白いと感じていただくことが多くあった。城跡や民藝でも学芸員など説明や案内を行う等の動きもあり、そのような方も担い手であると思う。それがボランティアであればどれだけできるかといった問題もあるが、そういった地味ではあるが説明していただいてわかる、PRできるということはソフトとして必要であると考えている。居住に関して、「居住推進ゾーン」としているところは、地域おこし協力隊を募集している場所で、大学と一緒に居住・空き家・地域課題の解決といった内容でやっていこうとしており、地域おこし協力隊も可能であればこのあたりに住んで欲しいと考えている。そこに呼び込む居住者も、例えば、職住近接で働くことを必要とする方にターゲットを絞り、住みながらそこで働いて頂ける人をマッチングしていくような課題設定とし、ゾーンのコンセプトに合わすせることが良いと考えている。最後に戎町の件だが、防火建築帯の課題があると認識している。また、防火建築帯に限らず商売を止めても住まわれているところをどう使っていくかという課題について、現在のところ解決策がなく、引き続き考えていく必要がある。

[委員長]よろしいか。渡辺委員の意見には若者というか担い手が集まる場があっても良いといった事業的な提案があったと思う。その点についてどうか。

[事務局]今年行っていることで、まちを考えていく中で、まちなかに働く場所、住む場所、遊ぶ場所、学んでいける場所があったら良いのではないかとテーマの中で、まちなかの空き家、空き店舗を使って定期的に自由参加でミーティングを行っている。先日、サンロード内の空き店舗にて「空き家会議」ということで1回目を開催した。サンロードまで人があふれるくらい70~80人くらい集まり、そこでゲストと

してまちで働いている方をお呼びして、まちなかでの働き方とかそれを掘り下げるようなことをした。80人位のいろいろな世代の方が来てくれてまちのことを考えることができたが、今後、定期的開催することを考えている。そういったことが場づくりの一環かと思うので引き続き取り組む予定である。

[委員長]ありがとうございました。他はいかがか。

[中村委員]74頁のゾーニングを見ると、そこに住む人の観点と観光客の観点の両方から見たときに、車に乗ってぼんと郊外に出るのではなくエリアの回遊を目的にすると、にぎわい創出を前提として歩くとかループバスの利用が前提になってくると思う。その際にはゾーンとゾーンを繋ぐラインがすごく重要と思う。例えば、駅前の「民藝観光ゾーン」から「城跡観光ゾーン」を繋ぐラインで、アートに関心がある人の歩くラインが1本存在するとすれば、ラインの中に少なくとも50m～100mに1箇所ずつはアートスポットが必要である。その際、このラインを強化するためにはこの商店街にアートクリエイターを付けて、空き家、既存店舗ショーウィンドウ、ギャラリーを使ったりして、飽きないようにゾーンにたどり着けるようにアートの道筋を創らなければならない。それが無いと魅力が途切れてしまうので回遊性が生まれにくいと思う。魅力から魅力に繋げるストーリーづくりを行い、そこをちゃんと人に歩かせる、いわば神社の参道のようにそこに必要なものたちがちゃんと集まっているのだといったラインがあるとよい。また、こういう風な回遊をしてほしいといった目標がないとスポットは配置しづらいし、歩く人も歩きづらいと思う。まち全体を公式にきちんとクリエイションできる人を付けて、ラインの完成像を見定めて、商店街や個人店舗に丸投げではなく、こうしていきたいからこのエリアを貸してくださいとか一緒になって若い人や学生と一緒に老舗をこういう風に見せたいから協力してくださいなどというやり方がいると思う。

[委員長]ありがとうございました。他はいかがか。

[大谷委員]まちなか美術ギャラリーとかが入っていたと思うが、市長から市議会に市民美術ギャラリーを検討したいと話があった。このような事業がどのように位置づけられるのか。それと、まちなか美術アートとの関係があるのかについてお聞きしたい。

[事務局]事業一覧の35「まちなか美術展開催事業」において、鳥取市では市民美術展と合わせて各商店街、施設で絵画、美術作品を置いて、まちに来る人に観てもらい回遊性を高める事業を計画している。また、市民美術ギャラリーとの関係は未だ具体的な計画が決まっていない。市役所跡地をそのような使い方をしてはどうかという意見もあるがまだ具体的なものは決まっておらず、中心市街地活性化計画との連携は図れていない現状である。

[成清委員]温泉に関して、日進地区の意見交換会でかなり空き家があるという話があった。温泉がある地域での空き家活用となれば、居住や交流人口増加のための宿泊施設とか短期滞在施設とかの活用ができやすいと思う。そうしたゾーン設定が「賑わい魅力創出ゾーン」を広げるといったものではなくて、温泉があるのは日進地区周辺に特化していると思うのでゾーン分けをすることが考えられる。そのような考え方はいかがか。大学と連携した空き家調査について遷喬地区周辺で予定されているが、日進地区も調査対象に加えることも考えられないか。

[事務局] ご意見された案も認識しているが、今回のゾーン設定については、重要施策を4つ掲げているものについて、重要施策をどこで重点的に展開するかを示したいという考えでゾーン設定を行っている。将来的にそのような動きがあり、そのようなことを考えている段階では施策とした形で示していきたいと考えている。基本的には民間が独自で動いているという形と聞いているので、そのあたりをどのように盛り込んでいくのかを考えて扱いをどうするのかを考えていきたい。

[委員長] よろしいか。他はいかがか。

[土橋委員] 59頁に重点施策として4つあるが、あくまでこれは文章であるので、これを具体的にそれぞれのエリアで地図の中に重要施策における資源を入れて示してほしい。例えば、温泉がどこにどれくらいあるのかも把握したい。そのような資源を具体的に地図にいれていただくとわかりやすくなる。例えば、民藝があって、ラインで結ぶ際にはどの位置にギャラリーがあるとか、どのような資源があるのか具体的な位置関係をわれわれも知りたい。そのあたりをお願いします。

[事務局] 今の図はざっくりとしたものを67頁は書いているが、計画書になった段階で各事業をどの場所で行うかももう少し詳しい図を作ることとなる。この図は注目する地点を書いてはいるが、民間の動きをどう示していけるのかも考えていく。温泉も図に示していきたいと思うので良い表現を考える。

[土橋委員] わかりました。

[委員長] 他はよろしいですか。ひとまず、次の「事業効果積算」に進ませていただきたい。また、ゾーンとか先ほどの報告等についての意見については時間をとりたいと考えるので、事務局より引き続き説明をお願いします。

(2) 協議事項 第3期中心市街地活性化基本計画(案)【資料3】により事務局説明

【目標指標の設定について】

[事務局] (62頁～73頁により、目標設定の考え方について事務局説明) 指標の設定項目を説明した後、数値目標積算の考え方を示し、現状の積算値から最終積算数値は修正を行うこと、修正積算値は委員会後に各委員へ報告すると説明。第5回委員会では、指標の項目・積算の考え方について意見をいただく。

[委員長] ありがとうございます。事業効果等の目標値に関して意見・質問をお願いしたい。

[徳田委員] 歩行者自転車通行量ですが平日と休日の平均値となっているが、トータルはそれで良いかもしれないが、平日と休日の動きは変わるので、別々に見た方が人の動きが分かると思うがいかがか。

[事務局] 測定は平日と休日に別々行うのでより細かい部分も中では見ていく。表向きの表示は平均値だとしても検証する中でそういった細かい所も見ていきながら検証できると考えている。

[委員長] 他はいかがか。

[成清委員] 45歳未満の居住人口の増加の指標数値について、既に建設が予定されている中心市街地内のマンションがあると思うが、それはそこで何人増えそうだというのを加味して目標値を設定されているか。

[事務局] 今分かっている建築予定を含めて設定しているが、そのタイミングが計画期間中に

なるのかを今一度確認して検討したいと思う。

[成清委員]おそらく若い世代も結構入るかと思うし、まとまった数が増える見込みがあるという
ことなので、もし少し増やせる可能性があるかと思った。

[委員長]ありがとうございます。他はいかがか。

[中村委員]年間売上額に関して、既存商店街がほんとに儲かっているかを指標にした方が良く
とコメントした記憶があるので指標の一つとして年間売上額はあって良いと思うが、
大江の郷の社長と話した時に大江の郷も売上額を目標としないで来客数を目標にし
ている。とにかく、たくさんの人に来てほしいという点で年間28万人の目標を立
てられている。例えば、大きな店であるイオンや大丸では、直接リノベーションま
ちづくり事業や他の事業に関わっている影響もあると思うが、大手の本社の営業経
営方針により大きく売り上げが変わってくる可能性がある。売上額も一つの指標に
はなるが、来客数が把握できると、もう少しフラットな見方が出来ると思う。通行
量の測点が未確定と聞いたが、先ほど話したゾーンを繋ぐライン上に通行量がある
か、お金を落としてほしいと思う場所に人が来ているかどうかを把握することがよ
い。今の時代はお店で見てネットで買うという場面もあるので、やっぱり来客して
いるという点が賑わいに繋がることとなるので指標として良いと思う。個人的には
リノベーションまちづくり事業に関連した新しいお店、例えばYとか、実際にこの
事業で立ち上がった新しい小さい店が1年2年3年4年と成長して、まちづくりの
ために創ったお店が街に馴染み、機能し、受け入れられ、商売として成り立ってい
るかを把握することが、分母は小さいが希望の種として指標の一つとして追いかけて
も良いと思う。

[委員長]ありがとうございました。事務局いかがか。

[事務局]どこの売り上げをみたいとか、どこを回遊させたいかといった点が非常に大事だと思
う。また、どう回遊させるのか、どこを目指すのかという点もある。事務局として
考えているイメージは、例えば、駅の機能をあげ交流人口を増やすことを前提に
それがどれだけ街に波及するのかが大事だと思っている。街への波及のイメージは
やはり2軸である商店街エリアだと思っている。その中の個店にどれだけ人を流し
ていけるか。そのイメージが皆さんと相違がないか不安もあるが、相違がなければ
2軸上の回遊として真ん中の花見橋通りなどの回遊性をみて、そのポイントにおけ
る個店の売り上げを見るというのが理想だと思っている。最初は個店の売り上げを
見させていただいたら一番良いと考え、渡辺委員や商連に相談させて頂いたが、個
店の売り上げを見せて頂くことが非常に難しく、妥協点として本通り若桜街道の「ま
ちパル、パレットとっとり、こむ・わかさ」にデータを提供いただくことの承諾を
頂いたというのが現状。且つ、現在、「鳥取大丸、シャミネ鳥取、イオン」に検討し
て頂いているので、駅の機能を高める中で、駅周辺の大規模商業施設にとりだけ波
及したかということは、これらで検証できるかもしれない。そして、街中にどれだ
け波及したかを検証することを「まちパル、パレットとっとり、こむ・わかさ」で
行うことになるとイメージしている。この考え方はいかがでしょう。事務局として
は、委員のみなさまがどこの部分の売り上げを一番目指していくのか、どこの回遊
性を高めるべきなのかというところも意見をいただければ有難い。

[委員長]ありがとうございます。回遊性はかなり難しい課題と思うが、回遊性が言われ始めたのは、第1期の修正を行うあたりからだと思っている。駅前にバードハットを創るとか大きな投資しようという話が未だあった頃に、その動きをどう商店街に繋げていくかといった文脈の中で回遊しなくてはだめであるといった観点で回遊性がクローズアップされてきた気がする。回遊性を議論するのであれば、そもそも狙っていた回遊性はどの程度達成できているか、そこにどんな課題があったか、ということを検証しないと先に進みにくいという気がする。3期計画でもし特に回遊性を重視していくのであれば、これまでも回遊性は課題として挙げられていたので、設定した回遊ルートがあつて、そこがどれくらい実際に実現できたかというポイントが出てから回遊性の議論がないといけないと思う。私は基本的に3期計画の回遊性は2期を引き継いだ回遊性であると暗に思っていた。だから、改めて設定し直すということであれば、これまでの検証や議論を出すことが必要になると思うが、みなさまの意見があればお願いしたい。

[杉本委員]回遊性が強化されないのは拠点について駅周辺の比重が大きく、もう一つの拠点の久松山、久松公園辺りの整備が回遊する拠点として弱い。それは、久松山の自然公園法とかいろいろな規制があるからやむを得ないと思うが。人が滞在する時間を延ばすために何が必要かということをもう少し久松山エリアで考えなくてはいけない。また、点と点をつなぐポイントに点在させるものとして魅力の付け方が必要である。今、袋川堤防を歩道整備しているが桜のシーズン以外で他のシーズンに応じた様々な魅力づくりができると思う。それは、素晴らしいロケーションがあるから。2核の一つが力不足であり、2核をつなぐ点の存在のアピールの仕方が弱い。そこをうまくPRする方法を言葉で表現するのか、もので表現するのかも整理しないといけない。現状は全くうまくできているとは思えない。

[赤山委員]今の話は私も同感であり、特に城跡ゾーンの核で中心になり得るであろう「市庁舎跡地」に関して、現在具体的に決められない状態だとは思いますが、「市役所跡地」のゾーン設定が「居住推進ゾーン」の中に含まれていることに疑問がある。さっき話に出た市民ギャラリーとかアート関係として、はっきり決められてはいないけれど、そういうものを誘導できるような方向に計画の中に持って行くことができないか。

[杉本委員]居住誘導地域とか、中心市街地に居住誘導エリアが都市マスでも新たに検討されているが、生活利便の不足がかなり重要なポイントとなっている。歩いて住める街というのが全国的な居住誘導エリアのコンセプトなのだが旧市内は一番欠けている。生活利便性の補強をどうしていくかを重点的に考えないと住めと言われても生活できない状態になってしまう。また、建物についても既存ストックを利用するとなれば渡辺委員もお話しされたように耐震の問題だとか経年の問題により利用不可能なストックが旧市内にはたくさんある。例えば、若桜橋詰めの本通り側では、若桜橋の付け根から本通り沿いに何件も空き家で集中しているところがある。その中の1件が相続関係で何とかならないかという相談がかなり前からあるが、建物を取り壊すしか方法がないようなところまで劣化してしまっている。また、通り沿いは共同建物になっているものが多いため1軒の意思だけではどうにもできないものもある。取壊費用と売却費用とのバランスの問題、取壊費用が逆転しているものもある。ア

スペースの問題も含め費用負担の関係で個人の力で整理がつかない物件があちこちに点在している。このように既存ストックには、利用するために処分の方法を検討しなければならないストックがたくさん存在している状況で、既存ストックの活用はまちなかの大きな問題でもある。

[委員長]はい。他にいかがか。

[桑野委員]去年3月にシャミネで回遊性調査を行った。シャミネで買い物した人は結構大丸とかスタバに歩いている。結構というのは日本のいろんな地方都市の歩行距離や海外の都市と比較して鳥取のシャミネに来た人はちゃんと歩いている。「鳥取の人は歩かない」というのは多分嘘で、目的地や目的があればシャミネから地下道を通って大丸に行ってまたシャミネに戻ってきてという買い物をしている。「何故歩かない」というイメージや「歩いている人が少ない」と感じるかという、ポイントが絞れていないことが大きいと思う。都市が形成してきた成長というのは「規模」の経済性と「集積」の経済性で、同じ業種の人が集まることによって専門性が特化するか、いろいろな業種が集まっているのですべてが手に入るという状況が整うか、その二つで都市は成長していく。しかし、今の計画を見るといろいろなことに少しずつ手を出しすぎている。それもいい事だと思うが、人口規模に対して幅広く手を出しすぎているが故に中途半端になってしまって、結局全部60点となり時間が経つと50点40点と欠点になってしまう。その中で、例えば一つだけ、もちろん全部60点も重要ではあるが、プラス1個だけ100点を狙いに行くとそれに影響されて別の物が少しずつ浮き上がってくる。これを期待するしか地方都市はうまくいかないと個人的には思っている。その観点で計画を見ると、ゾーンの組み方は良いと思えるし、個別計画も良いと思えるのだが、やはり順序を決めてこれをメインでやっていく、これによってあれもこれも良くなる。例えば、観光を良くすると結果的にお店もいろいろ増え、住む人も増えるというストーリーでも良いし、住む人が幸せな気分になるとそれが観光資源になって観光客が増えるというストーリーでも良いと思う。とにかく並列にするのではなくストーリーを組んでそれを住民と最初にテーマを決めて共有する。例えば、観光でいくならみな観光でいく、観光の中でも民藝を押ししていくのなら、みなで民藝を押ししていく。民藝に行ったらプラスこういうことも味わえることをメッセージで出しても良い。いろいろなステークホルダーがいるので、温泉でいくのか、砂でいくのか、民藝でいくのか議論はあると思うが、ある程度「これを中心にやっていこう」とメッセージを出してあげると周りの人も付いて行くことができるように思う。

[委員長]ありがとうございます。今の意見について事務局としてはいかがか。

[事務局]行政として万遍なくやらなくてはならないというのが基本としてある中で、1期2期もある程度万遍なく課題を見ながら取り組んでいたような計画だったと思う。一方で、3期を創るにあたっては国からも新しい視点を見つけてそこに向かっていく方向性が欲しいという要望もある。また、全部を書き込むと分かりにくくなると思うため、本計画では特にここに力を入れますという計画にしたいと考えている。これをする中でこういうことがおきていくといったことをもう少し書いていく、そういう意識で創っていきたい。ゾーン設定もそのようなことを意識しながら創って

いきたい。

[委員長]ちなみに現時点での考えでは、どの辺りが特徴となる方向になりそうか。案で結構です。

[事務局]ゾーンとして駅周辺を核とすることをメインに考えたいということをお先ずは事務局として考えたい。先ほど言われましたように万遍なくということになると、そこに住む方とかバランスも配慮しなければいけないということもあり、核としては駅周辺を考えたい。また、やはり観光として城跡観光ゾーンを前面に押し出していきたいという考えがある。国から要望されている新しい視点における方向性が欲しいということで、今後迎える「中核市」とか「市庁舎移転」それから「城跡周辺観光」が見えてくる、そこを前面に押し出した形で向かいたいと考えている。

[委員長]ありがとうございます。以前の回遊性議論の際に割と議題に上がったのが測定10地点の位置図という民芸美術館前の通りを大丸方面から本通り方面にどう流すか、特にパレットとっとりまでどう流すかという議論があったと記憶している。そのことは以前の回遊性議論はやはり駅周辺を中心に行われていた。今回の2期から3期にかけての特に大きな投資を伴う話、市にとっては大きな変化のタイミングになるが、「市役所移転」が最も大きなことになる。ここに何人位が徒歩でやってくるかが粗方分かっているはずなので、「市役所移転」先の人動きを想定した上での回遊性の設定と、市役所が無くなった跡地が新規に最低でもこれ位のものができるであろうという前提の基で、駅前と市役所跡地を豪快に歩きで結ぶことも難しいと思うため、第2地点目の回遊性としての設定があっても良いと思う。他に回遊性に関する意見はあるか。無ければひとまず回遊性の話はおいて、先ほどの指標の話で意見をいただきたい。

[赤山委員]64頁の「大手登城路復元整備事業及び周辺整備による増加」が高く積算されていると思う。その根拠となるものが第10次鳥取市総合計画における評価指数「主な文化財関連施設への入込客数」の増加率1.25を用いており、その評価指数を「大手登城路復元整備事業及び周辺整備による増加」に当て込んでも良いかも分からないが、先ほど「わらべ館」を外すと説明されたが、「わらべ館」を外して「仁風閣」のみへの増加数ということで下方修正されるという認識で良いか。

[事務局]今の積算だと、「大手登城路復元整備事業及び周辺整備」が「わらべ館」の入館者数の増加に波及するように積算しているが無理があると思う。このため、「わらべ館」は別で分けていきたい。そうすると「大手登城路復元整備事業及び周辺整備による増加」44,913人/年が下方修正になる。「わらべ館」の積算は別に検討したい。

[赤山委員]別で加えられるということか。

[事務局]別の項目で「わらべ館」の積算が独立する。今は「大手登城路復元整備事業及び周辺整備」が波及するとしているのでこれを別で積算する。

[委員長]よろしいか。他はいかがか。

[桑野委員]目標値の設定ですが、人口だけ平均値を使い、それ以外は平成34年度の値を使っているのは何か理由があるのか。

[事務局]平成34年までに整備が全部終わって平成34年度を見るということ。また、人口については、マンションが建つことでかなりの変動要素があり、どの年に立つのか予

測ができないので計画期間中の平均を見る。そういった考え方である。

[桑野委員]一つ一つの指標値の分散が大きく、例えば観光客数もかなり振れている。その振れ幅に引っ張られないようにするためには、これから5年間で合計何人を目指すとした方がその時のブームにあまり引っ張られないかもしれない。

[委員長]事務局は変更というのは検討できるのか。

[事務局]内閣府への提出期限ぎりぎりまで修正する。

[委員長]ありがとうございます。他はいかがか。

[大谷委員]高砂屋を文化観光施設に含む計画となっているが、高砂屋は「城下町とっとり交流館」という名称を持ち合わせているが、市民の利用が非常に多く、観光客の観点でみると利用者が少ない。利用者の数値を持っているわけではないが文化観光施設に入れて良いか。検討していただき必要という結論であれば異論は無いが、少し観光施設の意味合いからは違うように思う。実際の来館者の方々がイベントをやるような趣味の方が多し、市民の利用が多いという印象を持っている。

[事務局]交流人口を増やすという目標の中で最初の大きな方針により交流人口で括っているため、その中における観光でもあり、観光ではない市民も交流人口であると考えたい。全部を含める目標設定であるため、交流人口に市民の方が区域内に來られ交流するという意味でも入れていきたいと考える。但し、入れていく際に今のご意見でそれが観光ではなくて市民交流の方になれば、売上額にかける消費単価が観光消費単価では無くなるのでそのような整理をさせていただくようにしたい。

[大谷委員]わかりました。

[委員長]ありがとうございます。他はいかがか。時間が迫ってきているので指標以外のこれまでのテーマなどの意見でも良いのでお願いしたい。

[赤山委員]45頁のテーマ案は引きつづき検討ということと思うが、案1から案4まで見たかぎり、特に案3と案4が「訪れたい、暮らしたい」など、第2期テーマの「住みたい、行きたい」と順番を入れ替えたようなもので一緒であるという印象だ。「訪れたい、暮らしたい」が観光交流と生活環境づくりという二つの基本方針を元にしたものではあろうが第2期と同じ印象となっている。また、案1に「麒麟のまち」が唐突に出てくるのがすごく気になるが、「麒麟のまち」をあげるならそれ以降の「麒麟のまち」とはどういうものか、ストーリー創りが必要になってくる。個人的に思うのは、鳥取市のまちの特徴が駅周辺と城跡周辺の2核であり、それを他の街には無い鳥取らしさとして強調しても良いのではないか。例えば、「車の両輪」に見立ててまちづくりを推進していくようなテーマで、基本方針として「観光交流」と「生活環境」という2つの輪があって、これも「車の両輪」みたいに推し進めていくといったストーリーの流れる的なものがあるのではないか。

[事務局]前回委員会資料の引継ぎで案4まで示しているが、【資料3-2】にも事務局で考えたものを列挙している。皆さんから意見を多く頂きたいと思う。赤山委員が言われた「車の両輪」も良いアイデアだと感じたところで、是非ご意見を頂ければと思う。

[杉本委員]鳥取市は「麒麟」というのは推し進めたいPRポイントとして何か持っているか。

[事務局]中核市の位置設定と合わせて連携する都市圏の形成ということで兵庫県も含めた1市6町で「麒麟のまち圏」というのを形成している。その中での特徴的な部分を「麒

麟のまち」という事でテーマに使ってみたものである。

[中村委員]個人的には【資料3-2】の⑨番にある「もてなす」という言葉が好きである。鳥取の観光で圧倒的に足りていないのは「体験」だと思う。多くの観光地、名産物や諸工業が発達しているもの、大きな店には体験型の施設やイベント、ワークショップが必ずあり、そこで滞留する。家族やグループでもその場所に行かないとできない経験みたいなものを体験したい。比較的鳥取は「見せるだけ・売るだけ・食べさせるだけ」のところが多く、体験できるところが少ない。だからこそ、もてなす義務が私たちにはあると思うし、観光客だけでなく若い世代に住んでもらいたいという気持ちも込めると、もっと「もてなす」体制づくりが必要ではないか。逆に住んでいると分からないが、県外から来られた方は鳥取の方は「あたたかい」「やさしい」「良くしてくださる」と言われる方が多く、「もてなす」精神は持っているはずなのにツールや場が創れていないことが課題と感じている。新しい施設を創らなくても、今の店舗で土日だけはサービスとして体験型のワークショップをしてくだささいというような協力店を10店舗くらい中心市街地に創るだけでも観光ガイドブックに載ることになると思う。お金をかけなくてもできるソフト面の取り組みにみなさまの意識を集める意味でも「もてなす」という言葉がしっくりくると思う。

[渡辺委員]テーマを創るのは非常に難しいと思う。鳥取らしさを「麒麟」という表現も一生懸命考えられたと思う。基本的には、賑わいを創ったり、商売をしたり、観光客を呼ぶ、住む人を呼ぶということは「人が集う」ということである。「集う」を中心にそれがどう繋がるかということを中心に創ったら良いと思う。例えば、「集う」が繋がって「商う」、「集う」が「住まう」に繋がりぐるりと回っていく。そういうところに「もてなす」もあると思う。「集う」という言葉と「繋がる」ことを中心に創っていく。賑わいづくりはイベントのイメージがあるが、「集う」というのは子育ての人たちがどこかに集って、繋がりを持って、住んでもらう人との繋がりを持っていく等、「繋ぐ」をキーワードにしながらテーマを創ったら良いと思う。基本的には「賑わい」はなにかイメージが違い、「集う」と「繋がる」を中心に創っていくと新しい街が見えると思う。

[杉本委員]今出ている案はどれも交通標識か防火ポスターに書かれているような文言の書き方と類似したような具体性のない言葉が並んでいる。もう少し魅力的なキャッチできるような言葉の選択はできないか。ダラダラした言葉の羅列では魅力も伝わらないと思う。どこの都道府県でも使いそうな言葉や国交省から指標としてなっている案に入ってくるような言葉ばかりではないか。独自性をどこかに持たなくてはいけない。もしかして「麒麟」がそうかもしれないが、文章をもう少し練り直して欲しい。当たり前すぎているため、この中で選べと言われても魅力的と思えず選べない。

[赤山委員]例えば、すごくキャッチな言葉をメインテーマとして、防火ポスター的な内容をサブテーマとして付ける手もあるかもしれない。

[安田委員]私は逆に分かりやすい方がいいと思っている。意味がわからない言葉で言われた瞬間にどういうこととなるより、わかりやすい文言の方が良いと思う。ワードとして「城下町」と「挑戦」はイメージが違うと思った。住んでいる市民が「城下町」という意識が少なく、これからそういう意識を持って欲しいのであれば良いと思うが。

また、「挑戦」というわりにはどの点が挑戦なのかと感じてどうかと思う。分かりやすいのは良いと思う。

[委員長]ありがとうございます。昨日、事務局と打合せした際に素朴な疑問として「テーマは設定しなくてはいけないのか」と聞いてみたら、「テーマを設定しない街もある」という答えだった。選択肢としてはテーマを設定しない場合もあることを認識して頂けたらと思う。そういったご意見も含めてお寄せいただけたらと思う。

[玉木委員]テーマとは別になるが、指標のところでは事務局でかなり苦心されていると見させていただいた。45歳未満の人口で52人/年増加ということだが、52人中の29人は民間集合住宅による増加ということで、リノベーションとかUJIターン等で頑張っても、民間が集合住宅を建てたらそれが半数以上の効果になってしまうのが指標としてどうかという印象がある。【資料2-3】鳥取駅周辺まちづくり構想(案)ゾーニングと本体の資料が合致しているか分からないが、売上額の指標でポイントがないかという点で、【資料2-3】による「ちょっといいもの買い回り・文化交流ゾーン」が設定されるのであれば、そこからも売上額が拾えるものがあれば良いと思う。また、「飲食店集積ゾーン」でカレーが売れるのかどうか知らないが、こちらをゾーンとしていくのであれば、そういうのも売上額として拾っていくことも良いと思った。あと最後に、「誰でも歩きやすい歩行者優先ゾーン」にバリアフリーの歩行環境整備とあるが回遊性を高めたい方針であると私は読んだが、バリアフリー整備ではおそらく回遊性は高まらないと思っている。矢印が外国人に分かる表記か分からないが、歩く人はこちらのコースがあるとか、レンタルバイクを使いたい人はこちらがあるなどと整備した方が回遊性は高まるのではないかというのが個人的な感想。

[中島委員]基本的な方針の中でも「交通の充実」という方針が出てきているので、中心市街地に来やすい交通、来られた方が移動しやすい交通、定住する方が生活しやすい交通の充実を皆さんの意見を聞きながら行っていきたい。

4. その他

[事務局]今後のスケジュールは、10月中旬以降にパブコメをかけるよう進めていく。時間があまりないが今日頂いた意見を基に事務局で修正していく。この後はメール等で確認させていただきたい。また、11月には国の鳥取視察があるので、その対応等でお世話になるかもしれないのでよろしくお願いしたい。最後に11月下旬にひとまず国への提出となる。パブコメが終わって11月中旬頃に最後の委員会を設定させていただきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

5. 閉会

[事務局長]長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。国への提出に向けて個別に協議もさせていただきたいと考えている。ぎりぎりまで修正等をやってくつので、まだまだお世話になるが、引き続きよろしくお願いしたい。